

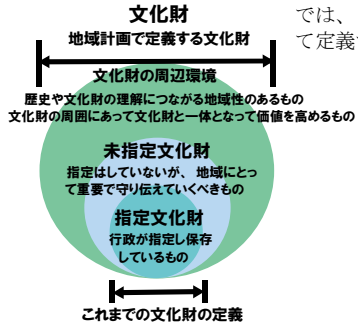
計画の基本理念と基本方針

基本理念 越前市の歴史文化を守り・伝え・活かし 未来へつなぐ

- 基本方針1 市の歴史的特性を、学術調査によって文化財的価値を明らかにする。
- 基本方針2 調査の成果を公表し、市民に共感を得られるよう、学び、触れ合う機会を設ける。
- 基本方針3 市民や事業者、文化財所有者、市と連携し、歴史文化を地域活性化やまちづくりにつなげていく。

対象とする文化財

これまで国・県・市の指定等文化財を文化財として扱ってきたが、本計画では、これらに加え未指定文化財、文化財の周辺環境を総じて文化財として定義する。



令和4年10月現在
(計画策定に当たり実施した調査による)
指定文化財 244件(国・県・市)
国登録文化財 60件
未指定文化財 892件

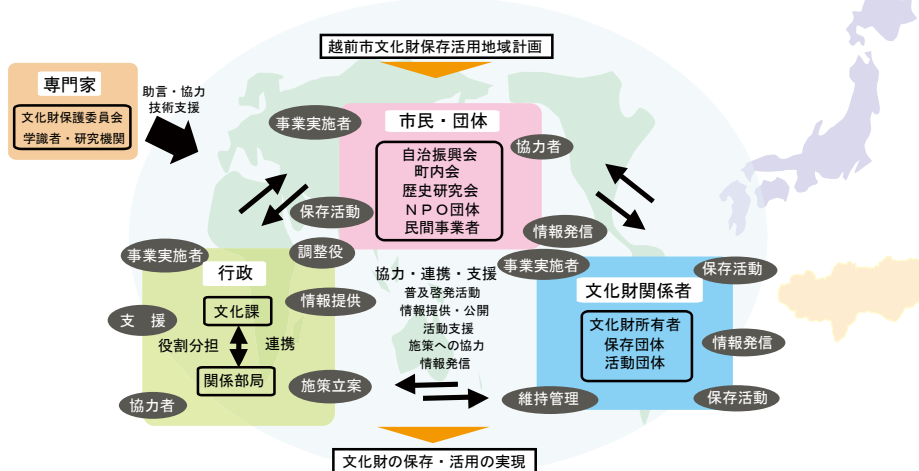


計画実現のイメージ

文化財の保存・活用を実現するために、行政、市民・団体、文化財関係者がそれぞれの立場や役割により、相互に連携しながら課題に取り組む。

行政は文化財担当部局が中心となつて進め、事業の内容に応じ部局間で連携して取り組み、市民や文化財所有者、関連団体、学識者等の意見や提案、相談の窓口となり、計画を推進する。このため、行政がコーディネーターとしての役割を担い調整を行う。

市民は、一人ひとりが歴史文化の担い手であることを認識し、行政が提起する課題や解決策に対する住民協働の場に積極的に参画し、住民が主役となつて取り組む。市内17地区の自治振興会は、地元の歴史文化を学び、活かす取組みを今後も継続的に行っていく。特に、学校教育や社会教育と連携することで、郷土愛を育み、世代を超えた交流につなげていく。そして、地域と連携して地域の宝を学ぶことで、次世代のまちづくりの担い手育成や、地域文化の向上に寄与する。



関連文化財群



関連文化財群は、多種多様な文化財を歴史的・文化的・地域的な関連性やテーマに基づいて、一定のまとまりとして捉えたものである。群を設定することで、市域の歴史や文化の魅力、文化財の価値を市民や来訪者に分かりやすく伝えることができ、事業への展開も期待できる。

越前市では、歴史文化の特徴により「山と里の信仰や伝承が培った歴史文化」、「越前国府や府中城下町に育まれた歴史文化」、「モノづくりと祭りなどの人々の営みにまつわる歴史文化」の3つに分類し、さらに系統ごとに8つの関連文化財群を設定した。

山と里の信仰や伝承が培った歴史文化

万葉集や継体天皇伝説により育まれた文化や、古代から神様が座すと信じられた日野山には信仰に関連する文化財が存在し、身近な里山には多種多様な文化財が存在する。

越前国府や府中城下町に育まれた歴史文化

古代は越前国府として、中世以降は府中として、越前国の政治、経済、文化の中心地であったことにより培われた文化財が多く存在する。

モノづくりと祭りなどの人々の営みにまつわる歴史文化

越前市は、伝統産業がひとつの地域に集積した全国でも珍しい地域で、このこと由来した数多くの文化財が存在する。また、地域に受け継がれた祭りや民俗芸能が受け継がれている。

- ① 万葉集の舞台 味真野
- ② はながたみ 継体天皇伝説
- ③ 日野山への信仰
- ④ 里山が育んだ文化財
- ⑤ たけふの誇り 越前国府と府中城下町
- ⑥ モノづくりのDNAが息づく越前市
- ⑦ 神と紙の里 五箇
- ⑧ 祭りと民俗芸能

文化財の保存・活用に関する措置

基本理念及び基本方針に基づき、文化財を取り巻く課題解消のための措置を実施することで、文化財の保存・活用を進め、調査研究、保存・継承、公開・活用の循環サイクルが確立することにより、まちづくりや観光振興につなげる。

- 調査研究
文化財の価値を明確にするため、未指定文化財の把握調査や文化財の指定、発掘調査等の調査を進める。
- 保存・継承
文化財の適切な保存や管理の実施、次世代を担う人材の育成、保存・修理に関する助言、財政的支援を行い、文化財を確実に継承していく。
- 公開・活用
文化財を広く周知し、文化財を知る機会、親しむ機会を創出するために必要な施設や設備の更新、機能の拡充やソフトの充実、観光事業への展開、人材の育成、体制整備を進めていく。